

2022年度 燃やすごみ、その他プラに指定袋導入を検討

市は、●生活系ごみ：燃やすごみ、その他プラ（プラスチック製容器包装）●事業系ごみ：可燃ごみについては、2022年4月から指定袋制度を導入したい。また、2026年度からは、缶・ペットボトル、その他不燃ごみについても分別区分を見直した上で2026年度より指定袋制度を導入し収集回数を増やすとの考えを示しました。環境への負荷をできる限り低減し、持続可能な循環型社会への転換を進めるためにごみの減量や再資源化をさらに推進するのに指定袋は効果があると説明しています。

■指定袋制度とは？

一般家庭や事業者がゴミ出しをする際に、袋の規格や仕様等、市が一定の条件を定めたゴミ袋の使用を義務付ける制度のことです。

○有料指定袋—市がデザインや規格等を定めた袋を販売します。ごみ袋代にごみ処理手数料を上乗せします。

○単純指定袋—市がデザインや規格等を定めた袋を袋メーカーが製造し、小売店が販売します。ごみ袋は自由価格で、ごみ処理手数料は含まれません。

○色指定袋—市販のごみ袋の中から、使用できる色や透明度を市が限定します。ごみ袋代は自由価格で、ごみ手数料は含まれません。

※本市では、市が規格・仕様を指定したごみ袋を使用する「指定袋制度」を導入したいとしています。



■市が採用予定の指定袋は？

- 生活系ごみ：45ℓ（大）30ℓ（中）15ℓ（小）
平袋タイプ・取っ手付き袋タイプ
- 事業系ごみ：90ℓ（大）45ℓ（小）平袋タイプ
- 袋の色については、隣接市の指定袋とは異なる色の袋にする必要あり。
- 環境負荷を低減するため、植物由来のバイオマスポリエチレンを配合したバイオマスプラスチック製の袋を導入予定。

■単独指定袋はどこで手に入れる？

市販のごみ袋と同じで、スーパーやコンビニ、ホームセンター等で購入。袋の販売価格は自由価格となっており、市販のごみ袋と同様に各小売り業者が販売価格を設定します。



■ごみの種類ごとに袋が必要に

ごみの品目毎に異なる種類の袋を購入しなければなりません。「燃やすごみ」以外の袋には、それぞれ異なる数のパンチ穴を設け、目の不自由な方が指定袋の種類が識別できるようにします。

この問題については10月26日(月)～11月25日(水)の期間「パブリックコメント」を実施します。
ぜひ、声をお寄せください。

西宮市でも

所得の低い方には支援が必要です

昨年、議員団では、東京都八王子市へ「ごみ問題」についての視察に行きました。八王子市では2004年よりごみ収集の「有料指定袋」を実施していますが、同時に各戸の個別収集に変え、また、低所得者にはごみ袋を交付していました。

減免一定枚数の袋を市から交付

- ・生活保護世帯・児童扶養手当を受けている世帯
- ・特別児童扶養手当を受けている世帯
- ・在宅で生活している身体障害者手帳（1級、2級）
精神障害者手帳（1級）保持者

おむつ専用袋

- ・紙おむつを使用している乳幼児（里帰り出産、一時滞在含む）
- ・65歳以上の方、障害者手帳保持者等
- ・紙おむつ使用者一人につき30枚配布

ボランティア袋

- ・自治会等の団体、個人が道路や公園等公共の場所を清掃した際に出たごみは無料の「ボランティア袋」を配布。個人20枚、団体500枚